



故東京商科大学教授福田徳三勲章加授件
右謹テ裁可ヲ仰ク
昭和五年五月十七日
内閣總理大臣濱口雄幸



内

閣

昭和五年五月八日
五月十七日付

昭和五年五月八日
五月十九日

昭和五年五月十七日 内閣書記官

内閣書記官

内閣總理大臣

賞勳局總裁



故東京商科大學教授正四位勲三等福田徳三儀ハ明治三十三年四月高等商業學校教授ニ任セラレ後一旦慶應義塾大學部ノ教授ニ聘セラレシモ再ヒ東京高等商業學校ニ復歸シ今日ニ至ルマテ經濟學ノ教授ニ努力セル外常ニ斯學ノ研究ニ專念シ獨リ我國ノ學界ノミナラス世界ノ

賞勳局

斯學界ニ對シ多大ノ影響音ヲ及シタリ即チ經濟原論ヲ始メ經濟政策、社會政策、經濟史ニ至ルマテ我國經濟學ノ凡ユル分野ノ開拓者トナリ時代ノ先鋒トナリテ其ノ發達ヲ促進セシメタリ殊ニ本邦經濟學カ學問トシテ成立スルニ至リタルハ同人ノ力ニ俟ツモノタシ又夙ニ社會問題勞働問題ニ着目シ明治三十五年ノ頃ヨリ已ニ今日ノ社會問題ノ起ルヘキヲ洞察シ其ノ國家主義社會政策ノ立場ヨリ現今

學界ノ一部ニ勢カアルコマルキシズムニ對シ其ノ缺陷ヲ指摘シタリ此ノ嚴正ナル批判ハ動モスレハ過激ニ走ラントスル社會運動ニ對シ穩健ナル指針トナリ殊ニ東京商科大學々生ニ所謂危險思想ノ傳播ヲ防止シタル點ハ一ニ同人ニ負フ所多シ又同人ノ經濟學上ノ著書頗ル多ク就中最近佛國ニ於テ發表シタル「經濟生活ノ循環性」ナル佛語論文ハ景氣變動理論ニ對スル世界的貢獻トシテ

内外専門書ノ隨所ニ引用セラル其ノ他重要ナル我邦社會立法ニ關シ多年參畫シ銳意盡瘁シタル等功績顯著ノ者ニ候處本月八日死去セル趣ニ付此際特ニ同日附シ以テ旭日中綬章ヲ加授セラレ度此段允裁ヲ仰ク
追テ本件擬敘勲等ニ付テハ主務省ト協議濟ニ有之候

故東京商科大學教授正四位勲三等福田德三
叙勲二等授瑞寶章

右ハ明治二十七年七月高等商業學校
ヲ首席ヲ以テ卒業シ次テ同校研究科
ヲ終ヘ同三十年三月歐洲ニ留學ヲ命セ
ラレ主トシテ獨逸ニ於テ商業學ヲ研鑽
シ兼ネテ英佛米諸國ノ海漕業ヲ視
察研究セリ、明治三十三年四月高等商
業學校教授ニ任セラレ同三十八年五月

文部省

同校出身者トシテ最初ノ法學博士ノ學位
ヲ授ケラレタリ後一旦慶應義塾大學部
ノ教授ニ聘セラレシモ再ヒ東京高等商業
學校ニ復歸シ爾來今日ニ至ルマテ教育
家トシテ經濟學ノ教授ニ努力セルハ勿論
常ニ斯學ノ研究ニ專心シ獨リ我國ノ學
界ノミナラス世界ノ斯學界ニ對シ多大ノ
影響ヲ及ホシタリ即チ經濟原論ヲ始
メトシ經濟政策、社會政策、經濟史ニ
至ルマテ我國經濟學ノ凡ユル分野ノ開拓

者トナリ時代ノ先鋒トナリテ其ノ發達ヲ
促進セシメタリ而シテ殊ニ本邦經濟學カ
學問トシテ成立スルニ至リシハ同人ノ力ニ
俟ツモノト謂フモ過言ニアラス同人カ嘗
テ獨逸ニ於テ公刊シタル論文「日本社
會經濟史」ノ如キハ獨文ニテ著ハサレタル
最初ノ日本經濟史タルノミナラス其ノ明
快ナル論斷ハ今ニ至ルマテ世界學界ノ
驚異トスル所ナリ又最近佛國ニ於テ發
表シタル「經濟生活ノ循環性」ト題スル

文部省

佛語論文ハ景氣變動理論ニ對スル世界
的貢獻トシテ内外專門書ノ隨所ニ引
用セラル此等ヲ以テスルモ同人ノ學者トシ
テノ地位ヲ推シ得ヘク現ニ佛國學士院會
員トシテ日本社會科學研究者中此ノ
榮譽ヲ荷ヘル唯一ノ邦人學徒タリ
同人ハ夙ニ社會主義勞働問題ニ着目
シ明治三十五年ノ頃ヨリ已ニ今日ノ社會
問題ノ起ルヘキヲ洞察シ其ノ國家主義
社會政策ノ立場ヨリ現今學界ノ一部

ニ勢力アル「マルキシズム」ニ對シ嚴正ナル
純學問的立場ヨリ其ノ缺陷ヲ痛烈ニ指
摘シ同人ノ反マルクス主義經濟學者ノ
巨頭タルコトハ世人ノ疑ハサル所ナリ而シテ
此ノ嚴正ナル批判ハ動モスレハ過激ニ走ラン
トスル社會運動ニ對シ穩健ナル指針トナリ
殊ニ東京商科大學學生ニ所謂危險思
想ノ傳播ヲ防止シタル點ハ一ニ同人ノ學
問的及人格的影響ニ員ノ所多ク其ノ
功績没スヘカラサル所ナリ

文部省

更ニ著書論文ノ上ヨリ見タル同人ハ其ノ
博識多才ヲ以テ經濟原論、經濟史、經
濟政策、社會政策等經濟學ノ多方
面ニ亘リテ頗ル多ク何レモ後世ヲ裨益
スルニ足ルノ論述ニシテ前記「日本社會經
濟史」「經濟生活ノ循環性」ノ外「暗雲
録」「ボルシェヴィズム研究」「復興經濟の
原論及若干問題」「現代の商業及商
人」「インスピレーションの說」「改定經濟學
研究」「經濟學研究」「經濟學講義」

「經濟學考證」「經濟學教科書」「經濟學論攷」「經濟學全集」「經濟原論教科書」「經濟危機と經濟恢復」「國民經濟講話」「國民經濟原論」「國際信義の立場より觀たる東京市佛貨債問題」「高等商業教育論」「厚生經濟の研究」「日本經濟史論」「黎明録」「勞働經濟論」「勞働經濟講話」「流通經濟講話」「最近商政經濟論」「生存権の社會政策」「シーザー及タチトスに依る古獨逸土地共有制度に

文部省

関する若干の疑問」「社會問題概論」「資本經濟講話」「社會政策と階級闘争」「社會運動と勞銀制度」「唯物史觀經濟史出立點の再吟味」「續經濟學研究」「經濟學講義」等ヲ舉クルヲ得ヘク其、他商業研究、改造、我等、解放等ヲ始メ諸雜誌新聞等ヘ、寄稿ニ至リテハ殆ント枚舉ニ遑アラス 尚同人ハ英米獨佛伊露ノ原著約八萬卷ヲ有スル學界ノ大藏書家トシテ名高ク又大正十二年大震災ノ際ハ自ラ

徹宵數日東京商科大學ノ文庫ヲ敬言
備シテ其ノ灰燼ニ歸スルヲ免カレシメタルカ
如キ以テ同人ノ學者的良心ノ如何ニ熾烈
ナルカヲ察スルノ證左トナスヲ得ヘシ

教育家トシテノ同人ハ三十有餘年間ニ亘リ
兵庫縣立神戸商業學校、東京高等商
業學校、慶應義塾大學、東京商科大學
ヲ通シテ熱心薰陶セル學生生徒、數頗ル
多キニ上ル、ミナラス其ノ門下生ニシテ商業
學校、高等商業學校、商科大學等ヲ通

文部省

シ其ノ教育ニ從事スル者百ヲ以テ數フヘク
之カ直接間接ニ我國商業教育ノ發展ニ
貢獻セルハ他ニ多ク其ノ比ヲ求メ難キ所ナ
リトス

上記ノ外尚同人ノ業績トシテ没スヘカラサルハ
社會局參與及中央職業紹介委員會委
員等トシテ多年社會局ノ局務ニ盡力
セル點ニシテ工場法中改正案、健康保險法
施行令案、勞働爭議調停法及同法施行
令案、勞働組合法案、勞働者災害扶助

法案、船員保險法案等同參與會議ニ附
議セラレタル重要法律案勅令案ノ審議
ニ參與シ毎會議殆ント缺クルコトナク出席
シテ熱心調査研究ヲナシ殊ニ勞働爭議
調停法及同法施行令ノ審議ニ關シテハ
同人主トシテ意見ヲ開陳シ以テ成案公
布ヲ見ルニ至レリ又社會事業調査會
委員在任中ニ於テ職業紹介法、住宅組
合法、中央卸賣市場法ノ制定ニ際シテ之
カ諮問ニ對スル答申ノ特別委員長或ハ主

文部省

査ニ舉ゲラレ廣ク外國ノ事例等ヲ調査
講究シ我カ國情ニ適應スル同法ノ發布
ヲ見ルニ至ラレタリ其、他職業紹介委員
會特別委員長トシテ職業紹介事業改善
ニ關スル施設要綱、少年職業紹介事業
改善施設要綱、女工其、他婦人ノ職業紹
介施設改善要綱、移動職業紹介ニ關ス
ル施設改善要綱等ノ重要諮問ニ對スル
答申立案ヲナシ又人口食糧問題調査會
委員人口部特別委員又ハ小委員長トシテ内

外移住方策、勞働ノ需給調節ニ関スル
方策、内地以外諸地方ニ於ケル人口對策、
人口統制ニ関スル方策、生産力増進ニ関ス
ル方策、消費及分配ニ関スル方策等ノ
答申立案ニ當リ終始克ク職責ヲ重シジ
時ニ罹病入院中 尚其ノ意見ノ報告開
陳ニ努メタル等熱誠真ニ驚クヘキモノアリ
是ノ如ク此等重要ナル我國社會立法ニ関
シ多年參畫シ銳意盡瘁セルノ功洵ニ
至大ナルヲ認ム然ルニ同人ハ曩ニ病ニ罹リ
爾來加餐食ニ努メシモ遂ニ本月八日ヲ以テ
卒去セリ庶幾ハ如上同人ノ功績ヲ録セラ
レ特ニ生前ニ遡リ頭書ノ通敘勲ノ榮ヲ
與ヘラレントヲ謹テ奏ス

昭和五年五月十四日

文部大臣田中隆三

内務大臣安達謙藏



文部省

福田徳三

明治七年十二月二日生

本籍 東京府豊多摩郡中野町本郷百〇一番地 平民

年	號	月	日	學	業	官	職	賞	罰	等	當該官衙等
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-------

明治廿七年七月七日高等商業學校卒業

全年九月十三日兵庫縣立神戸商業學校敎諭ニ任セラル

但月俸金參拾五圓給與

全廿八年九月十一日依願縣立神戸商業學校敎諭ヲ免ゼラル

全高等商業學校研究科へ入學

全廿九年八月廿六日高等商業學校研究科卒業

全年九月十一日本學年中商業實踐科講師ヲ囑託シ爲手當

一ヶ月金貳拾五圓給與

高等商業學校

履歴用紙

東京商科大学

全廿九年九月十一日商品陳列所兼務ヲ囑託ス

高等商業學校

全三十年三月十三日商業學研究ノ爲滿三年獨國へ留學ヲ命ス

文部省

全年三月十八日依願囑託ヲ解ク

高等商業學校

全三十三年一月十二日來三十三年四月留學滿期ノ處尙一箇年間留

學延期ヲ命ス但留學延期限内ニ於テ海漕業

研究ノ爲英、佛、米三箇國へ留學スヘシ

文部省

全日英、佛、米三箇國留學中一箇年金千八百圓

ノ割ヲ以テ學資ヲ給ス

全

全年四月十三日任高等商業學校敎授

敘高等官七等

内閣

全日九級俸下賜

文部省

全年四月十八日外國留學中年俸三分ノ一支給ス

全

全年六月十一日敘從七位

宮内省

全年	七月十六日	王國ルトウィッヒ、マキシミリヤン大學（ミューンヘン府）國家經濟科大學ニ於テ國家經濟學博士「ドクトル、エコノメー、アマリッエ」ノ學位ヲ受ク	
全年		獨國商業教育協會々頭ヨリ全會名譽通信員タルノ囑託ヲ受ク	
全卅四年	三月廿六日	陞敍高等官六等	内閣
全年	四月廿九日	商業學研究ノ爲北獨、露、西、奥、ノ四箇國へ巡歴ヲ命シ旅費其他一切ノ費用トシテ學資金貳百圓増給ス	文部省
全年	七月十日	敍正七位	官内省
全年	九月十七日	留學地ヨリ歸朝	
全年	十月九日	七級俸下賜	文部省
履歴用紙			
全卅四年	十二月廿日	商業教員養成所講師ヲ囑託ス	高等商業學校
全卅五年	三月卅一日	商業教員養成所教務囑託爲手當金五拾五圓交付	全
明治三十五年	四月一日	高等商業學校（東京高等商業學校ト改稱商業教員養成所）同校附設	
全年	四月廿八日	六級俸下賜	文部省
全年	七月十一日	御用有之韓國へ被差遣	内閣
全年	九月廿九日	韓國ヨリ歸朝	
全卅六年	五月二日	陞敍高等官五等	内閣
全年	七月卅一日	敍從六位	官内省
全年	十二月十六日	五級俸下賜	文部省
全卅七年	八月二日	文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス	
全卅八年	五月廿二日	博士會ニ於テ學位ヲ授クヘキ學力アリト	全

東京商科大学			認メタリ依テ明治卅一年勅令第三百四十 四號學位令第二條ニ依リ茲ニ法學博士ノ 學位ヲ授ク	文 部 省
全 卅九年	八月一日	休職満期		
全 卅九年	八月十五日	休職満期ノ處在官六年以上ニ付年俸月額 三ヶ月分下賜	文 部 省	
全 四十二年	一月十八日	講師ヲ囑託シ報酬トシテ一箇年四百五十 圓交付	東京高等商業學校	
全 年	九月廿一日	自今報酬一箇年金九百圓交付	全	
全 四十四年	九月七日	自今報酬一箇年金千五百圓交付	全	
全 四十五年	七月三十日	大正ト改元		
大正三年	十月二日	自今報酬一箇年金貳千貳百圓交付	全	
全 八年	五月十三日	任東京高等商業學校教授		
履歴用紙			東京商科大学	
全	日	敘高等官三等	内 閣 文 部 省	
全 年	六月三十日	敘從五位	官 内 省	
全 九年	四月一日	廢校廢官		
全	日	任東京商科大学教授		
全	日	敘高等官三等	内 閣	
全	日	四級俸下賜	文 部 省	
全 年	四月十五日	本學附屬商學專門部講師ヲ囑託ス	東京商科大学	
全 十年	四月十四日	高等官官等俸給令改正年額金四千七百七拾圓		
全 年	五月廿三日	一級俸 當分四千二百六拾圓下賜	文 部 省	
全	日	陸軍高等官二等	内 閣	
全	日	賜三級俸 當分四千二百六拾圓	文 部 省	
全 年	六月廿日	敘正五位	官 内 省	

全十一年	二月廿七日	賜三級俸	文部省
全年	四月七日	帝國學士院會員被仰付	内閣
全年	六月卅日	支那へ出張ヲ命ス	文部省
全十二年	十月一日	高等官官等俸給令改正	
全十二年	十月一日	賜本俸三級俸	
全年	十一月二十五日	職務俸金七百圓下賜 勅令第三八〇號ニ依リ帝國經濟會議官制廢止	全
全十三年	二月六日	本學附屬商學專門部講師囑託ヲ解ク	東京商科大学
全十四年	一月卅一日	歐洲へ出張ヲ命ス（帝國學士院會員ノ方）	文部省
全年	二月廿三日	敘勳四等 授瑞寶章	賞勳局
全年	三月二日	帝國學士院會員トシテ歐洲へ出張ノ序ヲ 以テ歐米各國ニ於ケル學事並經濟事情視 察ヲ命ス	文部省
東京商科大学			
全十五年	八月二日	敘從七位	官内省
全年	八月七日	歸朝	
全年	十月二十七日	歐敘高等官一等	内閣
全年	十二月二十五日	昭和ト改元	
昭和二年	七月七日	人口食糧問題調査會委員被仰付	内閣
全三年	三月十五日	中央職業紹介委員會委員被仰付	全
全年	六月十三日	佛國「オフキシェ」ド、ロルドル、ナショナル、ドレジン ドノール」勳章ヲ受領シ及佩用スルヲ允許	
		セラル	賞勳局
全年	六月二十五日	敘勳三等 授瑞寶章	全
全年	十一月十六日	授大禮記念章	全
全五年	一月二十五日	賜本俸二級俸	文部省
全年	四月九日	中央職業紹介委員會委員被仰付	内閣

前教後
一年十月
定限七年
不是
五年半月

全年	五月八日	敘正四位	宮内省
全年	日	賜本俸一級俸	文部省
全年	日	職務俸金千圓下賜	文部省
全年	五月九日	死 亡	宮内省
全年	五月九日	特旨ヲ以テ位一級追陞セラル	宮内省

履歷用紙

東京商科大学



文 部 省

内閣
文部第一四号

一故福田徳三敘勲ノ件
右上奏書及進達候也

昭和五年五月十四日

文部大臣田中隆三

内務大臣安達謙藏

内閣總理大臣濱口雄幸殿



裏面白紙